

情報価値とは何かを問い合わせ直すとき

「新型コロナウイルスには花崗岩が効く」「26度～27度のお湯でウイルスは死滅する」

誰もがスマホの簡単な操作で、知りたい情報を入手できる便利な時代になつたことは歓迎できる。その一方で、SNS等を通じてフェイクニュースが拡散し、何の関わりもない人々にまで被害が及ぶ負の面があるのが、現代社会のいびつなところである。こうした傾向が色濃く出たのが、新型コロナの感染拡大とともに起きた情報爆発＝インフォデミックである。

「新型コロナウイルスには花崗岩が効く」「26度～27度のお湯でウイルスは死滅する」

誰もがスマホの簡単な操作で、知りたい情報を入手できることを、この種の治療法にNS等を通じてフェイクニュースが止まらない。他にも、新型

コロナ感染拡大でトイレットペーパーの品不足が起こるというデマが世界中に広がり、消費者はその不安に駆り立てられて店頭に駆けつけるという騒動も記憶に新しい。

立派な企業が、秋田県で麺製品の製造や牛乳配達の事業を展開している「林泉堂」の林社長は、ハイブリッド戦争とは、政治目的を達成するために、軍事的脅迫とそれ以外の手段を組み合わせ、

中経

論壇

経営支援NPOクラブ

川上 博史



フェイク情報に要注意

ターで拡散され、会社の業績を大きく悪化させる被害を受けた。ワクチンに関する「誤情報」や「アメリカ大統領選挙でのフェイク騒動」など、混乱が終息しない中で、ロシアによるウクライナ侵攻が行われ、ハイブリッド戦争の実態を目の当たりにすることになった。情報の伝え方ひとつで、国民の意識をいかようにも操作できる恐ろしさがある。廣瀬陽子氏によると、

非正規軍と正規軍を合わせて展開する戦争手法のこと、政治、経済、外交、サイバー攻撃、プロパガンダを含む情報・心理戦などのほか、テロや犯罪行為も含まれるという。

欧米各国や日本などのように、言論や報道の自由が守られている国は、現実に起きていることをさまざまな媒体を通じて多面的・客観的に情報収集し、自分なりに判断できるが、ロシアなどのように国家が国民に流す情報の統制を強めると、それがフェイク情報であっても信じこまれる土壤が形成され、人々が自律的に判断する習慣を奪う危険性がある。かつて「情報とは無秩序のものを秩序づけるもの」と学んだことが本当に正しかったのか。I T技術やSNSの普及でフェイク情報による混乱が急増する中で、情報価値について今一度問い合わせ直さなければならぬ時期に来ていると